

2024年度 町田市立小川小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年1月30日

学校教育目標 ○ よく考える子ども ○ 思いやりのある子ども ○ 健康な子ども	学校経営の重点 「まちだこドマチ条例」を尊重し、こどもの声を聴き、こどもが自分たちの思いを形にできる学校を創る。開校50周年を契機に、こどもたち、教職員、保護者・地域と、新たな伝統を創る1年にする。
○ 目指す学校像………こどもが主役となり、みんなでハッピーになることを目指す学校 ○ 目指す児童・生徒像………互いの「自由」を認め合うとともに、自らの目標に向かって学び続ける児童 ○ 目指す教師像………進取の気性に富み、こどもに「関心・感動・感謝」のできる教師	重点目標の成果と課題 開校50周年を契機に、児童の思いを反映させた教育活動を数多く展開することができた。また、縦割り班を生かして運動会を実施したり、全校ミーティングを行ったことにより、異年齢集団による活動が日常化した。それにより、多くの児童が「学校みんなが仲良し」という思いを抱き、本校に所属意識、誇りを抱くことができるようになった。学校経営方針の大きな変化に対しては、校長と保護者が直接対話する場を設けたり、学校の取組をホームページで毎日発信したりすることで、学校への理解が深まり、保護者との信頼関係を築くことができた。学校と保護者が手を携えて、こどもの未来を見据えた教育を共に考えていくための、「土台」が築かれた1年になったと考えている。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信と公開を通して、本校の教育活動への理解を求める。	ホームページへの学校・学年だよりの掲載、学校日記の更新、tetoruiによる情報配信に努める。	4 ホームページ週4回以上の更新 3 ホームページ週3回以上の更新 2 ホームページ週2回以上の更新	3.8	A	4 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価55%以上	89	A	○昨年度に比べ、教員の自己評価が向上しており、情報発信に対する意識的な取組が見られる。保護者アンケートの結果からも、学校がオープンであること、相談や意見を言いやすい雰囲気があるとの意見が寄せられ、このような環境づくりが、保護者との信頼関係を深める要因となった。	○今年度は、校長との懇談会(ほっしーカフェ)を3回、臨時開催した。各回とも10名強の保護者が集まり、日頃の教育活動に関し、率直な対話ができ、大変好評であった。懇談会を定期開催にし、より一層、保護者との信頼関係を深める。	校長先生の取り組みのほっしーカフェはすばらしい。保護者の安心感が伝わってくる。先生方がお苦しいだけ話しやすい雰囲気があると思う。HPから学校の様子路知ることができ、校長先生や副校長先生、担任の先生とも話しやすい雰囲気を感じている。	A
			保護者と教職員の会(保護教)との連携を深め、保護者のニーズに基づいた学校公開を積極的に実施する。	4 90%以上のクラスで意識して公開を実施 3 80%以上のクラスで意識して公開を実施 2 70%以上のクラスで意識して公開を実施	4	A	1 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価80%以上 2 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価55%以上	97	A	○「地域人材の活用」の肯定的評価を90%以上にするために、地域や保護者に対して、地域人材活用の取組の様子や成果を具体的に伝える。その際、活動内容だけでなく、地域人材の活用が、どのような児童の学びにつながったのか、エピソードや成果物を提示することで、地域人材の価値が伝わるよう工夫する。	○「地域人材の活用」の肯定的評価を90%以上にするために、地域や保護者に対して、地域人材活用の取組の様子や成果を具体的に伝える。その際、活動内容だけでなく、地域人材の活用が、どのような児童の学びにつながったのか、エピソードや成果物を提示することで、地域人材の価値が伝わるよう工夫する。		
			地域を「学校」「学習材」と捉え、多様な価値観との出会いを栄養にする「人を浴びる」教育を展開する。	ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用する。(ボランティアコーディネーターの活用) 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3.8	A	1 学校評価アンケート「ア」①「地域人材の活用」肯定的評価80%以上 2 学校評価アンケート「ア」①「地域人材の活用」肯定的評価55%以上	82	A	4 学校評価アンケート「ア」①「地域人材の活用」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「ア」①「地域人材の活用」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「ア」①「地域人材の活用」肯定的評価55%以上	93	A	
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	自らの目標に向かって、学ぶ意義や楽しさを実感できるよう、協働して課題解決を図る授業を創造する。	児童同士の対話を重視した協働的な授業を実施する。	4 問題解決型の学習展開の実施90%以上 3 問題解決型の学習展開の実施80%以上 2 問題解決型の学習展開の実施70%以上	3.4	B	1 問題解決型の学習展開の実施70%未満 2 問題解決型の学習展開の実施70%未満 3 問題解決型の学習展開の実施70%未満	95	A	○家庭学習に関しては、特に低学年で「自分からやるようになった」という意見が増加した。さらに、中学年の目標に向かって、自己調整しながら、選択的に学びを進めることにより、学ぶことの意義や楽しさを実感できるよう導きたい。	○来年度は単元内自由進度学習を全学年で取り入れ、個別最適な学びをより一層推進する。単元の目標に向かって、自己調整しながら、選択的に学びを進めることにより、学ぶことの意義や楽しさを実感できるよう導きたい。	Chromebokの活用が進んで子どもたちが積極的に学習に取り組むようになったとの声を聞いている。成果は今後少しずつ出てくるのではないかと期待している。学習発表会では子どもたちが意欲的に学んでいる姿を見ることができた。学ぶことは楽しいということを小学校生活で感じることができるようになれば十分である。	A
			自己を振り返り、軌道修正をしながら一人ひとりが自らの目標に向かって学び続ける授業を創造する。	学びや成長を実感するための振り返り及び、教員による価値づけを行う授業を実施する。	4 学習の振り返りを取り入れた授業90%以上 3 学習の振り返りを取り入れた授業80%以上 2 学習の振り返りを取り入れた授業70%以上	3.6	A	1 学習の振り返りを取り入れた授業70%未満 2 学習の振り返りを取り入れた授業70%未満 3 学習の振り返りを取り入れた授業70%未満	97	A	○Chromebokの活用については、左記に挙げたWebアプリの活用により一層の推進に加え、新たにプログラミング学習の充実を推進する。確かな時代認識に基づき、児童の未来につながる学力を育み、ICTの有用性や可能性を児童が実感できるように、授業改革を図る。	○Chromebokの活用については、左記に挙げたWebアプリの活用により一層の推進に加え、新たにプログラミング学習の充実を推進する。確かな時代認識に基づき、児童の未来につながる学力を育み、ICTの有用性や可能性を児童が実感できるように、授業改革を図る。	
			個別最適化された学習活動を充実させるために、ICTを効果的に活用した授業を実施する。	4 ICTを活用した授業の実施80%以上 3 ICTを活用した授業の実施70%以上 2 ICTを活用した授業の実施60%以上 1 ICTを活用した授業の実施60%未満	3.3	B	4 児童アンケート「自分で考え、すすんで学習に取り組んでいる。」の肯定的回答90%以上 3 児童アンケート「自分で考え、すすんで学習に取り組んでいる。」の肯定的回答80%以上 2 児童アンケート「自分で考え、すすんで学習に取り組んでいる。」の肯定的回答70%以上	96	B	4 児童アンケート「友達と力を合わせて学んだり、生活したりしている。」の肯定的回答90%以上 3 児童アンケート「友達と力を合わせて学んだり、生活したりしている。」の肯定的回答80%以上 2 児童アンケート「友達と力を合わせて学んだり、生活したりしている。」の肯定的回答70%以上	96	B	
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすることを意識・意欲・態度を育てる。	人権を尊重し、互いを対等で自由な存在として認め合える心、そのために必要な規範意識を育む。	自他の大切さを考える人権週間あいさつや返事、言葉遣いの指導や人権週間の設定等、人とかかわり考える活動の充実。	4 いじめ防止の取組を月に1回以上実施 3 いじめ防止の取組を学期に2回以上実施 2 いじめ防止の取組を学期に1回以上実施 1 いじめ防止の取組を年に2回以上実施	3.8	A	4 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止・体罰防止、こどもの人権」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止・体罰防止、こどもの人権」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止・体罰防止、こどもの人権」肯定的評価55%以上	80	A	○挨拶については、保護者アンケートから、「学校での指導が日常生活でも活かされている」という意見が見られる。定着が図られつつあると捉えている。	○挨拶については、縦割り班活動のより一層の充実により、児童同士が誰とでも挨拶を交わすような、活気ある学校空間づくりを進める。挨拶運動やふれあい月間における挨拶運動の取組も、新しい発想で工夫したい。	○挨拶については、縦割り班活動のより一層の充実により、児童同士が誰とでも挨拶を交わすような、活気ある学校空間づくりを進める。挨拶運動やふれあい月間における挨拶運動の取組も、新しい発想で工夫したい。	A
			自分のよさや可能性に気付くとともに、自分も相手も大切にできる態度を養う。	道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳実践力を育てる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.6	A	4 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識や挨拶」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識や挨拶」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識や挨拶」肯定的評価55%以上 1 学校評価アンケート「ウ」②「規範意識や挨拶」肯定的評価55%未満	84	A	○「学校での活動に安心して取り組んでいる。」については肯定的回答が94%と高い評価が得られている。市教委からは月1回と指示されている学校は月に5回と指示されている。本校では週1回の頻度で実施しており、児童の悩みの早期発見・早期対応につながっているものと受け止めている。	○ネットマナーについては、児童の活用実態を教員組織で共有し、課題解決のための対応や問題の未然防止を狙った授業開発を進める。児童を取り巻くネット環境は日々変容し続けている。それに対応できるように、教職員に加えて、地域や保護者とも連携を図りながら、地域全体で児童の安全を確保する。	
			交通安全防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成	学級活動や縦割り班活動(小川っ子タイム)等を通して、自分のよさ、相手のよさを発見するとともに、自他を尊重する態度を育成する。	4 安全指導の取組を月に1回以上実施 3 安全指導の取組を学期に2回以上実施 2 安全指導の取組を学期に1回以上実施 1 安全指導の取組を年に2回以上実施	3.9	A	4 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識・ネットマナー」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識・ネットマナー」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識・ネットマナー」肯定的評価55%以上 1 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識・ネットマナー」肯定的評価55%未満	73	B	○「安全意識・ネットマナー」については、取組指標と成果指標に差が見られ、指導のより一層の工夫が必要である。	○「安全意識・ネットマナー」については、取組指標と成果指標に差が見られ、指導のより一層の工夫が必要である。	
健全な体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	健康・安全についての理解を深めることにより、健康・安全に生活する基礎を培う。	家庭と連携して、手洗いうがい等の基本的な生活習慣の定着および給食の機会を捉えた食育の充実を図る。	4 毎日の指導実施100% 3 毎日の指導実施90%以上 2 毎日の指導実施80%以上 1 毎日の指導実施80%未満	3.4	B	4 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価55%以上 1 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価55%未満	78	B	○食習慣・生活習慣については、ルーティンで実施していることを見直す時機であると捉え、保護者とも連携しながら、新たな取組を模索していききたい。	○食習慣・生活習慣については、ルーティンで実施していることを見直す時機であると捉え、保護者とも連携しながら、新たな取組を模索していききたい。	A	
			体を動かす心地よさや意義を実感させることを通し、アクティブに生きる力の素地を養う。	月1回以上の安全点検の実施を通し、安全に学習に取り組むための環境を整える。	4 点検後の3日間以内の改善90%以上 3 点検後の3日間以内の改善80%以上 2 点検後の3日間以内の改善70%以上 1 点検後の3日間以内の改善70%未満	3.8	A	4 学校施設に起因する児童のけがの件数月に5件以内 3 学校施設に起因する児童のけがの件数月に10件以内 2 学校施設に起因する児童のけがの件数月に15件以内 1 学校施設に起因する児童のけがの件数月に16件以上	99	A	○児童アンケート「体を動かすことが楽しい」は高ポイントであることを生かし、「運動の日常化」につなげたい。そのためには、日頃の休み時間に、体を動かす心地よさや楽しさを実感できるような機会を確保することから始める。教員が率先して、休み時間に教室に出て児童と遊んだり、縦割り班遊びを充実させたりして、全校を挙げた取組を工夫していく。		○児童アンケート「体を動かすことが楽しい」は高ポイントであることを生かし、「運動の日常化」につなげたい。そのためには、日頃の休み時間に、体を動かす心地よさや楽しさを実感できるような機会を確保することから始める。教員が率先して、休み時間に教室に出て児童と遊んだり、縦割り班遊びを充実させたりして、全校を挙げた取組を工夫していく。
			体力調査の結果分析に基づいた授業や体育朝会、外遊びの励行等の体育的指導を充実させる。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.5	A	4 学校評価アンケート「エ」①「運動の日常化」肯定的評価80%以上 3 学校評価アンケート「エ」①「運動の日常化」肯定的評価70%以上 2 学校評価アンケート「エ」①「運動の日常化」肯定的評価55%以上 1 学校評価アンケート「エ」①「運動の日常化」肯定的評価55%未満	69	C	4 児童アンケート「体を動かすことが楽しい。」肯定的回答80%以上 3 児童アンケート「体を動かすことが楽しい。」肯定的回答70%以上 2 児童アンケート「体を動かすことが楽しい。」肯定的回答60%以上 1 児童アンケート「体を動かすことが楽しい。」肯定的回答60%未満	95		A
その他													

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。